

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所ひまわり		
○保護者評価実施期間	R6年12月1日		～ R6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	R7年1月10日		～ R7年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して、楽しむことができる。 信頼・安心できる大人がいる。	登園した時に、声をかける。一人一人の子どもの表情を見る。子どもに伝える、伝え方を考える。子ども同士のトラブルは、お互いの話を聴き、やりとりさせ、解決に導く。困ったことは一緒に解決する。子どもと思いきり遊ぶ。家や学校での様子を知る、集める。	それぞれの特性に応じた、配慮ができるようになる。 子どもの気持ちに共感したり、一緒に遊んだり、活動に取り組むことで、信頼関係を深める。 職員間の情報共有や連携の強化。
2	さまざまなプログラムがあり、子どもが主体的に取り組める。	季節に応じた遊びや行事を企画。 行事に向けて子どもが自分たちで企画をし、実行できる取り組みを考えている。 個人のペースを尊重し、集団や個別での活動の進め方を工夫している。 地域での活動を意識した取り組み。	低学年と高学年のグループに分けて活動をしているので、年齢や特性に応じた配慮ができるようになる。 個別と集団を取り入れているので、物理的な環境を整理し、子どもが活動に集中して取り組めるように環境を整える意識を高める。
3	家族支援やきょうだい児支援への取り組み。	夏にきょうだい児を集めてイベントに取り組んでいる。 きょうだい児支援について、法人で講演会を実施した。 父母の会の運営を支え、勉強会や座談会を実施した。	各ご家庭のニーズや困り感を汲み取り、適切な助言や支援ができるようになる。 きょうだい児支援や父母の会の支援を継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	遊びをととしての発達支援の専門性	活動のねらいや目的を決めて、プログラムを計画しているが、実際の活動の際、十分に意識して取り組めていないことがある。	活動の打合せで、ねらいや目的を確認し、子どもの動きを予測し配慮することを検討する。 小学生のライフステージにおける育ちや発達年齢を理解し、子どもの現状や課題をコミュニケーション・言葉、認知・行動、人間関係・社会性、健康・生活の5領域を通して深められるようにしていく。
2	地域の人との交流に課題がある。	地域資源の活用はできているが、地域の方との交流ができていない。 地域の子がいる場所(公園や児童館)には行くが、そこで出会う子との交流を職員が意識できてなかった。	児童館や公園などで出かけることは続け、地域の人との交流する仕掛けや取り組みをしていく。 社会で過ごしていくうえで、あいさつや人と関わる時のマナーやルールなど、普段から丁寧に取り組み、身に付けられるようにしていく。
3			